

1 単元名 近世の日本～江戸幕府の成立と対外政策～

2 本単元の目標

- (1) 近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 近世の日本に関わる諸事象について、その時代に見られる課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	思①社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付け、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 思②近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	態①近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、内容(3)の「近世の日本」に区分される内容であり、「我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて、課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。」と示されている。そのため、中世の武家政治との違いという観点から、中世から近世への転換の過程を多面的・多角的に考察し、課題解決を図る学習場面を設定する。また、江戸幕府と藩による支配が確立した過程を、江戸幕府による大名統制や身分制、農村の様子の変化、対外政策などから理解させたり、統一政権の諸政策の目的に着目させたりすることで、前単元と比較して、大きな戦乱のなかった江戸幕府による政治の特色を考えさせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒を対象に、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論することについて、実態調査(令和6年*月実施、第2学年*組*名)を行った。歴史的分野「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の単元学習後に行った単元のまとめと議論による実態調査では、「信長と秀吉、どちらが優れた天下人であったか」という問いに対し、複数の立場や意見を踏まえ、単元を貫く学習課題に関する考えを再構成しながら議論することができた生徒は*人であった。一方、考えの再構成はできたが、議論を通して複数の立場や意見を踏まえ、考えを組み立て直すことができなかった生徒は*人であった。この結果から、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論する力に課題があることが分かった。

(3) 指導観

パフォーマンス課題を柱とした個別最適な学びと、意見交流による生徒の表現を促す協働的な学びを単元計画の工夫を通して往還することで、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論する力を育成したいと考える。まず、単元の導入でパフォーマンス課題を提示し、単元を貫く学習課題を自分事として捉えるための予想を立てる。次に、毎時間パフォーマンス課題に対する振り返りを行い、単元を通して法や外交等の視点を踏まえて問い続けていく。そして、問いに対する予想を修正しながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、考えを再構成できるようにする。また、第二次から第六次にかけて、ジグソー法等による意見交流の場を継続的に設ける。議論を通して、生徒が自他の考えを比較しながら課題を追究したり、自身の考えを見つめ直したりしながら、考えを深め、再構成できるようにする。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	・前時代までの資料を提示し、次に続く江戸時代を想像する。 問題（課題） 戦国時代までの武士は、どのような政治を行うことで世の中を治めていたのだろうか。 ・関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が全国支配の実権をにぎり、江戸幕府を開き、戦乱のない世が築かれたことを確認する。 ・パフォーマンス課題について知り、学習計画を立てる。				・鎌倉、室町、戦国時代の武士が行ってきた政治を振り返り、武士政権ではなぜ戦が絶えなかったのか、その違いを考え、本単元の予想につなげる。 ・パフォーマンス課題を提示することで、追究する必然性や方向性を明確にもつことができるようにする。
		ある日、老中であるあなたは、病床に伏す4代将軍徳川家綱のもとに呼ばれました。 家綱：「今日、そなたに来てもらったのは、次の将軍になる綱吉について相談があったからじゃ。」 老中：「そんな弱気にならないでください。まだまだ家綱様には元気でいていただかなくては。」 家綱：「うむ。しかし、徳川幕府がなぜ平和な世の中を築くことができたのか、私が生きている間に後世に伝えておかななくてはならぬ。そなたには、綱吉の時代でも老中として、江戸幕府を支えてもらいたいと思っておる。そこで、そなたには『徳川家家訓』の考案を練ってもらいたい。」 老中：「私に、そのような重大な役目が果たせますでしょうか。」 家綱：「そなたを信頼しているからこそ任せたいと思っておる。家康様がどのようにして、平和な江戸時代の基礎を築いてくださったのか、その功績を家訓として残したい。これからも江戸幕府による支配を確実なものとするために、頼んだぞ。」 老中：「はっ、承知いたしました。家康様のご功績を必ずや、後世についでみせます。」 ・あなたは、4代将軍家綱様より、『徳川家家訓』の考案を依頼されました。これから先、徳川幕府が平和な世の中を築いていくために、大切にすべきことを家臣と共に考え、家綱様に報告する準備をしましょう。				
		・江戸幕府が平和な時代を維持するために、次の世代の将軍たちに残すべき教訓は何か、その理由と共に考える。（予想を立てる） 問題（単元を貫く学習課題） なぜ、江戸幕府は260年もの間、戦乱のない世の中を築くことができたのだろうか。 ・学習課題の予想を、タブレット端末を用いて振り返りシートに記入する。				・パフォーマンス課題の予想をランキングに表すことでその理由について表現することができるようにする。 ○ 態①：学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組んでいるか見取り、不十分な生徒には自分が将軍だったらどのような政治を行うか、自分事として考えられるように助言する。【観察・振り返りシート】
2	2	問題（課題） 江戸時代、大名や民衆の暮らしには、どのような変化があったのだろうか。 ・大名配置や法の整備、宗教統制等、前時の予想を基に、江戸時代ではどのような変化があったのかを考察する。 ・江戸幕府が大名や民衆をどのように支配していたのかを、諸政策の意図を踏まえて考察する。 ・諸政策の意図について意見交流をすることで、それぞれの立場にとってどのような政策であったのか、考えを深める。 まとめ（結論） 江戸幕府は、強い軍勢力を背景に、参勤交代や武家諸法度によって大名の生活を細かく管理した。また、農民に対しては五人組によって連帯責任を負わせることで、安定して年貢を納めさせた。どの身分に対しても厳しい統制を行った。 ・振り返りシートを、タブレット端末を用いて記入し、「徳川家家訓」に取り入れるべき教訓を見直す。				・大名配置や参勤交代、武家諸法度などから、中世の武士と江戸幕府の軍事力の違いに着目することで、中世から近世への転換の過程を捉えることができるようにする。 ・江戸幕府が身分ごとに支配制度をつくったことに着目することで、身分制度が確立したことを理解することができるようにする。 知①：江戸幕府の大名統制や身分制といった政治の特色について必要な情報を読み取ることができているか見取り、読み取りが不十分な生徒には、情報の探し方や読み取り方を助言する。 【観察・ワークシート】 思①：江戸幕府の政治の展開に着目して、近世の社会の変化の様子を多面的に考察できているかを見取り、できていない生徒には、参考になる資料を提示し、多面的に考えることができるようにする。 【観察・ワークシート】
	3	問題（課題） 江戸幕府は、大名や民衆にとって満足のいく政治を行うことができていたのだろうか。 ・大名や民衆の立場から江戸幕府の政治に対する満足度を心情メーターで示して、その根拠を考える。 ・なぜ、江戸時代の大名や農民は反乱を起こさずに、江戸幕府の支配を受け入れていたのかを議論する。 まとめ（結論） 大名は参勤交代や武家諸法度により、下剋上を起こしにくくなった。五人組によって民衆の責任感は強まったが、重い年貢に苦しんだ。戦や一揆ができずに、平和な世の中になったが、どの身分も我慢の多い時代となった。 ・振り返りシートを、タブレット端末を用いて記入し「徳川家家訓」に取り入れるべき教訓を見直す。				・前時の学習内容から、江戸幕府がどの身分に対してどのような政策を行ったのか整理することができるようにする。 ・大名や民衆が江戸幕府の政治をどのように評価しているかを心情メーターに表すことで、理由を説明しやすくし、その根拠を議論することができるようにする。 ・大名や民衆の思いを考えることで、江戸幕府の政策の影響や結果を考察することができるようにする。 思①：複数の立場や意見を踏まえ、政策と国民の生活の関係性を捉えられているかを見取り、不十分な生徒には、参考になる資料の提示や補助発問を通して、捉えることができるようにする。 【観察・ワークシート】
	4	問題（課題） 江戸幕府は、どのような外交政策を行い、戦のない世の中を目指したのだろうか。 ・島原の乱や絵踏を通して、なぜ幕府がキリスト教を禁止したのかを考察し、鎖国体制について確認する。 ・幕府が諸大名や商人の貿易を制限した理由を考察する。 ・意見交流をすることで、江戸幕府の外交政策を広く捉える。				・キリスト教と幕府支配の関係に着目することで、幕府が鎖国体制に踏み切った理由を理解することができるようにする。 ・宗教や貿易がどのように統制されたのか、視点を明確にして着目することで、外交政策が江戸幕府による支配にどのような影響を与えたのかを整理できるようにする。 知①：鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを

		まとめ（結論） 鎖国を行うことで、キリスト教による幕府の支配力の低下を防いだ。また、貿易を制限することにより、幕府が利益を手に入れることで支配力を増し、戦のない世の中を目指した。 ・振り返りシートを、タブレット端末を用いて記入し、「徳川家家訓」に取り入れるべき教訓を見直す。			基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 【観察・ワークシート】
	5	問題（課題） 江戸幕府による宗教や貿易の統制は、大名や商人に受け入れられていたのだろうか。 ・大名や民衆の立場から江戸幕府の外交政策に対する満足度を心情メーターで示して、その根拠を考える。 ・大名や民衆の心情について議論をし、根拠となる政策や政策の狙いについて考察する。 まとめ（結論） 鎖国などの対外政策により、大名は自由な貿易によって利益を上げられず、民衆も自由な信仰ができず、国民は統制に苦しんだ。一方、外国との争いや宗教による反乱がなかったことで、平和な時代になり、国民生活は安定した。 ・振り返りシートを、タブレット端末を活用して記入し、「徳川家家訓」に取り入れるべき教訓を見直す。	◎		・大名や民衆など、立場ごとに外交政策に対する満足度を心情メーターで数値化し、視覚的に自分と他者の考えを比較しやすくすることで、活発に議論することができるようにする。 ・宗教や貿易の統制の目的の共通点に着目することで、江戸幕府が支配力を強化するための政策であったことを考察することができるようにする。 思①：社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【観察・ワークシート】
3	6 本 時	目標：近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 1 前時までを振り返り、江戸幕府が行ってきた政策を整理する。 2 学習問題を確認する。 問題（単元を貫く学習課題） なぜ、江戸幕府は260年もの間、戦乱のない世の中を築くことができたのだろうか。 3 これまでの学習を根拠に、何を大切にして政治を行うべきか、優先順位とその根拠を明確にして、「徳川家家訓」を作成する。 ・「徳川家家訓」を第三条まで作成する。 ・どのような政策が重要であるか理由も明記する。 <予想される生徒の考え> ・大名の経済力を抑え、勢力をもたせず、抵抗の力を削ぐためにも、武家諸法度や参勤交代は重要。 ・五人組の制度は、連帯責任を負わせることで農民からの反抗を抑えることができるので取り入れるべき。 ・キリスト教徒が団結して幕府に逆らうことがないように、鎖国は今後も継続していくべき。 ・外交を独占することは、大名や民衆に余計な知恵を与えないためにも続けた方がいい。 4 パフォーマンス課題に関するまとめについて意見交流する。 ・班を二度再編成し、各班の考えを幅広く取り入れる。 5 パフォーマンス課題をまとめた後、単元を貫く課題について考え、全体で考えを共有する。 ・「徳川家家訓」の第一条の内容を班で議論し、戦乱のない世の中を築くための重要事項をまとめる。 <予想される生徒の考え> ・秩序を保つために武家諸法度は必ず入れるべき。 ・幕府の財力を落とさないためにも、安定して年貢を治めさせる必要がある。五人組が最も重要である。 ・大名に大きな勢力をもたせず、同時に人質も得ることのできる参勤交代は、大名管理のために最重要である。 ・キリスト教のように、新しい思想が入ってくることは危険である。鎖国は今後も徹底して行うべきである。 6 意見交流を基に、江戸幕府が戦乱のない世の中を築くことができた理由について、本時のまとめを行う。 まとめ（結論） (例) 江戸幕府は、平和な時代を築くために武家諸法度や五人組、鎖国などの政策を行った。これらの政策を通して、大名や農民にそれぞれ責任を負わせ、外国との勝手な交流を禁じた。そうすることで、江戸幕府の支配力が強まり、大名や農民による反乱を防止し、戦乱のない世の中を築くことができた。 7 本時の学習の振り返りを記入する。 ・単元学習前の予想と単元学習後のまとめを比較し、自身の考えの変化を捉える。	◎		・タブレット端末に蓄積した振り返りシートの記述内容を活用して、これまでの学習を基にパフォーマンス課題を解決していくことを確認する。 ・パフォーマンス課題の解決を通し、単元を貫く学習課題に迫ることを確認し、見通しをもつことができるようにする。 ・評価の観点と共有し、生徒自身が伝える内容が要点を捉えているかを確認することができるようにする。 ・単元の導入で立てた予想を振り返らせ、考えの変容に気付けるようにする。 ・自分の立場の主張や、考えの根拠を互いに質問しやすくするために、家訓に取り入れるべき教訓をランキング形式で表すようにする。 ・考えがまとまらない生徒には、諸政策の意図を振り返ることで、戦乱のない世の中を築くためには、どういった立場の者たちをどのように支配するべきか具体的に考えることができるよう助言する。 ・江戸幕府が、戦乱のない世の中を維持できるか、問題意識をもって発表を聞くことができるように助言する。 ・政治を行う上で大切にすべきことについて、ランキングで示してきたものを、一つに絞ることで、江戸幕府がなぜ戦乱のない世の中を築くことができたのかについて追究することができるようにする。 ・考えがまとまらない生徒には、班で意見交流をした際に出ていた意見を、板書を基に振り返らせ、共感できる意見を参考にするよう助言する。 ・どの政策も、江戸幕府の支配力を高めるために行われていたという共通点を全体で共有することで、本時のまとめにつなげることができるようにする。 ・パフォーマンス課題のまとめや意見交流したことを想起させ、江戸幕府が戦乱のない世の中を築くことができた理由を多面的・多角的に記述することができるようにする。 ・本時の課題に対するキーワードを、全体で共有することで、自分の言葉でまとめを記述することができるようにする。 思②：近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 【ワークシート】

						◎ 態①：近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 【観察・ワークシート】 ・江戸幕府が大きな力をもって統制をかけたことによる平和なため、不満をもつ者も多く存在したであろうことに触れ、次の小単元以降も、大名や民衆の思いを考え、課題を自分事として捉えることができるようにする。
--	--	--	--	--	--	--